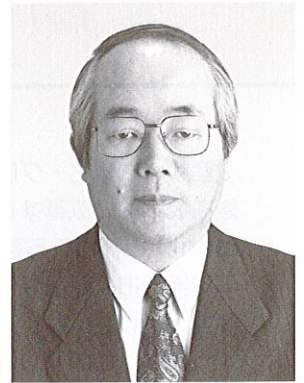


## オープン化時代のEAシステム

EA Systems toward the Open World

中野 博信  
Hironobu Nakano

製造業においては、円・ドルレートが一時70円台に跳ね上がる急激な円高そして再び100円前後の状態が続いている不安定な為替環境、またバブル後遺症とも言える景気の長期低迷という厳しい市場環境の中、スピーディかつ大きな変革を求められています。生産に関しては、海外拠点との分担を大胆に進めグローバル化することが生き残りのための重要な戦略となってきています。商品開発に関しては、機能性のさらなる追求、開発サイクルの短縮化、品質向上など市場のニーズを的確に把握し、いかにタイミングよく高品質な商品を投入できるかが問われています。

そのために、研究・開発・設計部門の開発力・技術力を強化し、さらに製造・販売・保守という製品ライフサイクル全般にわたる業務を含めてリードタイムの短縮、開発コストの削減が大きな課題となっています。

こうした課題に対し、CAE（コンピュータによる解析支援システム）、CAD（コンピュータによる設計支援システム）、CAM（コンピュータによる製造支援システム）およびこれらエンジニアリング支援システムの情報の管理、各業務プロセスのシステム化を実現するPDM（Product Data Management：製品データ管理）システムなどによる各種エンジニアリング支援システムの適用、利用技術の高度化の努力が続けられています。

当社は、研究・開発・設計・製造部門におけるエンジニアリング業務の効率化を実現するため、統合EA（エンジニアリングオートメーション）システムのコンセプトを定義し、その中でCAE/CAD/CAMシステム、PDMシステムを重要なコンポーネントと位置づけ、これら商品への開発投資を行ってきました。

統合EAシステムを実現するプラットフォームとしてはWS/PCのオープンシステムが主流であり、最近ではインタ

ーネット/HotJava<sup>(注1)</sup>を介してグローバルなエンジニアリング情報の交換も積極的に行われています。また、Ultra<sup>(注2)</sup>、SPARC<sup>(注3)</sup>、PentiumPro<sup>(注4)</sup>に代表されるCPU処理能力の著しい向上、Windows<sup>®</sup> 95<sup>(注5)</sup>およびWindows<sup>®</sup> NT<sup>(注6)</sup>環境によるGUI（グラフィカルユーザインタフェース）向上、適用範囲の拡大も進んでいます。

オープン化の動きはプラットフォームだけではなく、“CALS”と呼ばれている米国国防省が始めた情報の標準化（オープン化）の動きが、民間企業を含め世界規模でビジネスを行ううえでの最重要課題となっています。

一方、全社基幹系情報システム分野をも包含したビジネス分野のオープン化も急進展しようとしています。

当社では、こうしたオープン化の動きに合わせこの分野におけるいっそうのシェア拡大を目指し、90年代後半にターゲットを絞ったEAシステムの開発および商品化に着手しています。CALSへの積極的取組み、強力な統合情報管理機能があるPDMシステムOptegra<sup>(注7)</sup>、全社基幹系情報システムのオープン化を推進するOracle Applications<sup>(注8)</sup>システムとの連携、オブジェクト指向・イベントドリブンなどの新しい技術を盛り込み、さらに使いやすい操作環境を実現したCADシステムPelorus<sup>(注9)</sup>/DesignPost<sup>(注10)</sup> Draftingなどはその代表的なものです。

今後とも、ユーザおよび関係各位のいっそうのご支援をお願いいたします。

(注1)、(注2) HotJava, Ultraは、Sun Microsystems社の商標。

(注3) SPARCは、SPARC International社の商標。

(注4) PentiumProは、Intel社の商標。

(注5)、(注6) Windows, Windows95, WindowsNTは、Microsoft社の商標。

(注7)、(注9)、(注10) Optegra, Pelorus, DesignPostは、Computervision社の商標。

(注8) Oracle Applicationsは、Oracle社の商標。